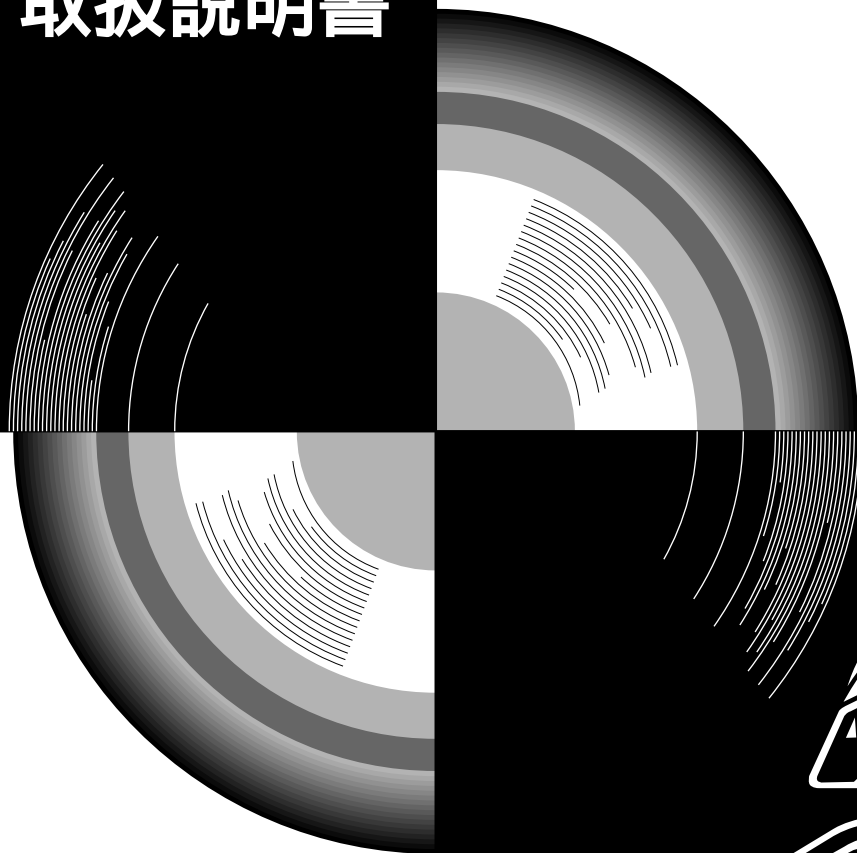


取扱説明書

 **SEROV**

はじめに

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

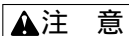
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- お車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行（保証書裏面の記入・捺印）

車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

1. 安全運転のために	P2
あなた自身と同乗者のために	P2
歩行者と他の車のために	P7
環境・住民の方との調和のために	P8
2. 名称と操作	P10
各部の名称	P10
計器類の見かた	P12
メインスイッチ	P13
ハンドルロック	P14
ハンドルスイッチの使いかた	P16
フューエルコック	P18
チョークノブ	P18
ヘルメットホルダー	P19
サイドカバーの取り外しかた	P19
サービスツール／書類入れ	P19
サスペンションセッティング	P20
3. 燃料補給	P22
ガソリンの給油	P22
4. 運転操作	P23
エンジンのかけかた	P23
走りかた	P25
ギヤチェンジのしかた	P26
シフトダウンのしかた	P26
ならし運転のしかた	P27

ブレーキの使いかた	P27
エンジンの非常停止	P28
5. 日常点検	P29
日常点検の実施	P29
日常点検箇所／点検内容	P29
日常点検の方法	P30
6. 定期点検整備	P34
定期点検整備の実施	P34
定期点検整備の方法	P34
アンダーブラケットの 取り付け状態の点検	P35
クラッチレバーの遊びの点検	P35
ドライブチェーンの点検	P36
エアクリナーエレメントの 点検	P36
車体各部の給油脂状態の点検	P37
バッテリーの点検	P37
ブレーキパッドの点検	P38
7. やさしい整備	P39
やさしい整備	P39
ブレーキの遊びの調整	P40
ブレーキ液の補給	P40
ブレーキランプスイッチ	P41
クラッチレバーの調整	P42

エンジンオイルの補給	P43
エアクリナーエレメントの 清掃	P44
ドライブチェーン	P45
バックミラー	P45
タイヤ	P46
バッテリー	P46
ヒューズ	P48
8. お車の手入れ	P49
洗車	P49
保管のしかた	P50
アフターケア用品について	P51
9. サービスデータ	P53
製品仕様	P53
サービスデータ	P54
10. モデルラベル	巻末

JAU01894

1. 安全運転のために	2
2. 名称と操作	10
3. 燃料補給	22
4. 運転操作	23
5. 日常点検	29
6. 定期点検整備	34
7. やさしい整備	39
8. お車の手入れ	49
9. サービスデータ	53
10. モデルラベル	巻末

安全運転のために

JAU01896

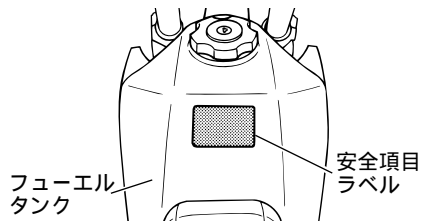
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

- 安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU01905

1. あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて



運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3XC-2118K-10

安全運転は正しい服装から



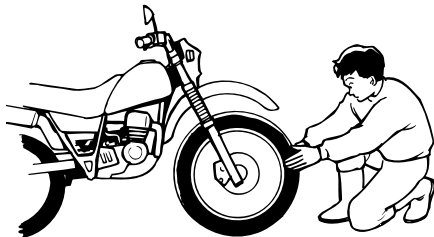
- ヘルメットは必ず着用してください。
ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- 靴はかかとが低く、足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。

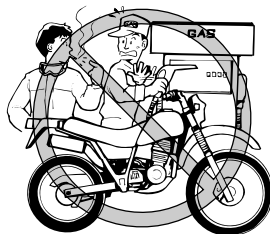
運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を
必ず行う



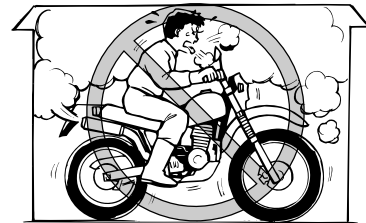
事故や故障を防ぐため、法令で定められた
1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令
で定められた6か月、12か月ごとに行う
定期点検は必ず実施してください。

給油時は火気厳禁



ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃
料です。給油時は必ずエンジンを止め、火
気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを
始動しない



排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成
分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけ
ると、ガス中毒を起こす危険があります。
エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい
屋外で行ってください。

荷物はしっかり固定する



両手はハンドル、
両足はフットレスト



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、
法令により 2 人乗りはできません。

荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。

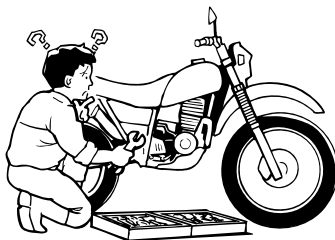
- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

急激なハンドル操作や
片手運転はしない



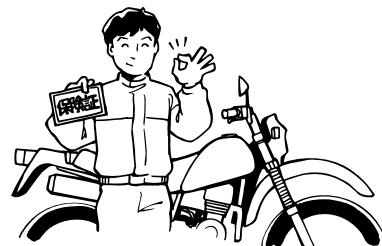
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

自己流のエンジン調整、部品の
取り外しはしない



エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

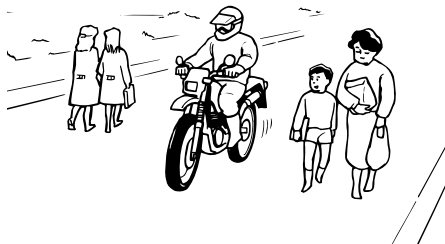
自賠責保険に必ず加入



自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。

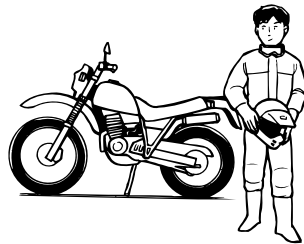
2. 歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

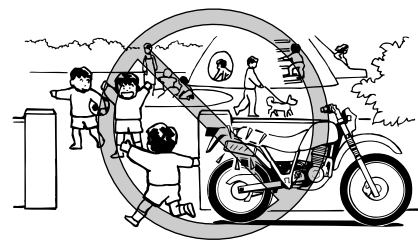


- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車



- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーをお持ちください。また、Pロック、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。



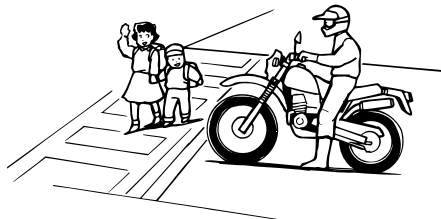
- 車から離れる前に、サイドスタンドが確実にセットされているかを確認してください。

警告

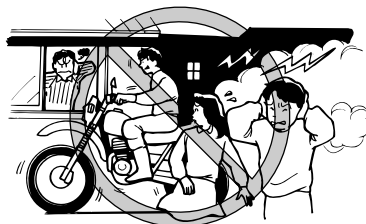
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

3.環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

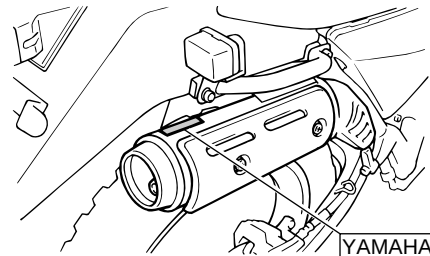


自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない



違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

なお、ヤマハ純正部品のマフラーには "YAMAHA" マークが刻印されています。

環境への配慮

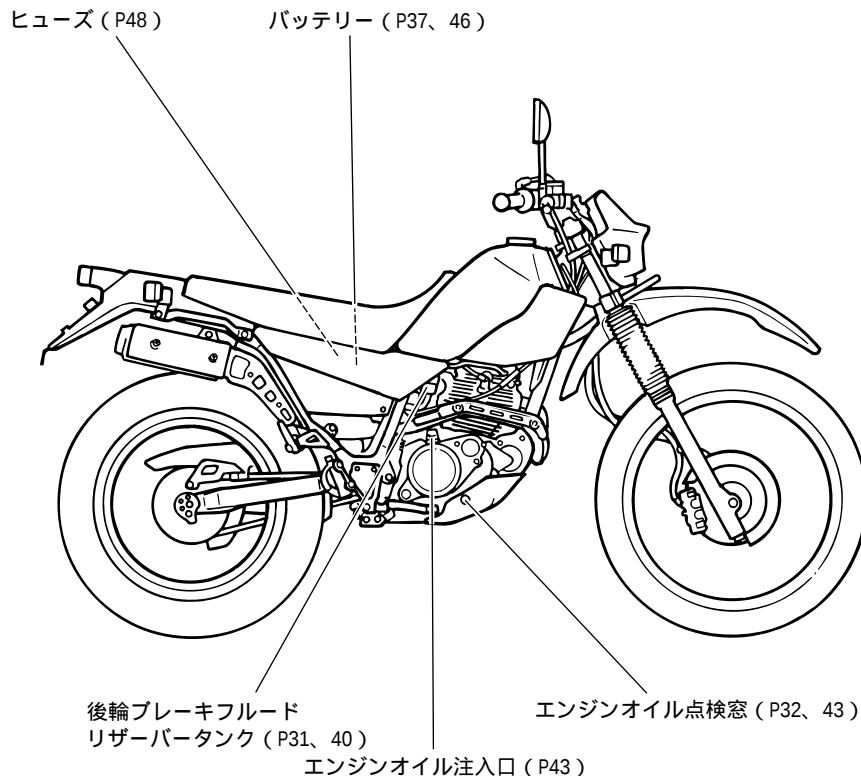


河原・森林・山野には小鳥や小動物がいます。
走行場所、走行方法には
十分気をつけて走りましょう。

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの
廃棄処理をするときは、環境保護のため
お買い上げのヤマハ販売店にご相談くださ
い。

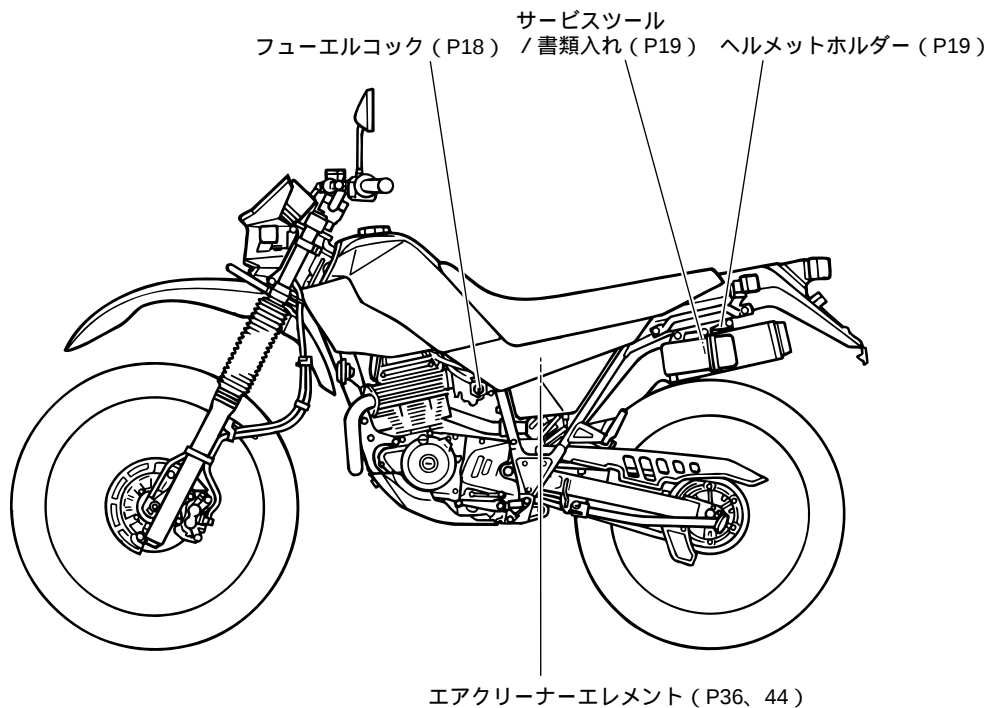
名称と操作

各部の名称

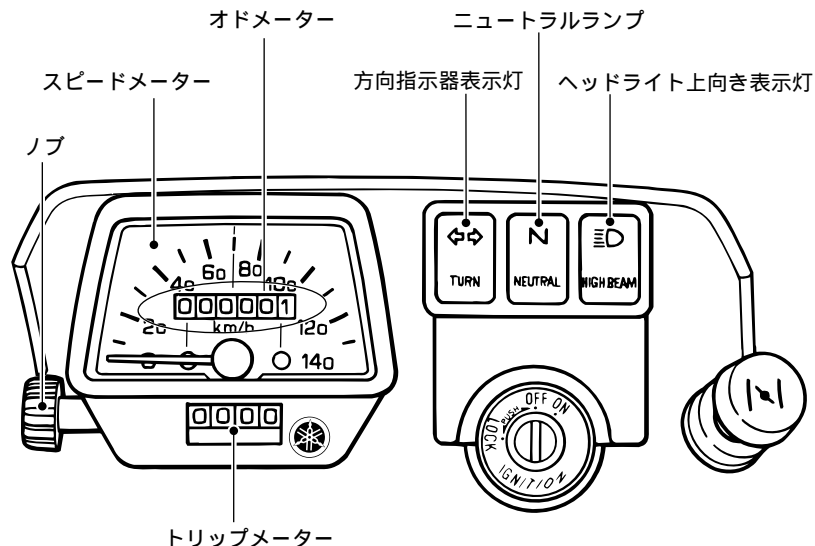


各部の名称を示してあります。() 内に参照ページがあるものは、そのページに詳しい説明があります。

(.....部は外からは見えない部分です。)



計器類の見かた



JAU01922

スピードメーター

車の速度を指針で示します。

JAU01924

オドメーター

走行した総距離を示します。

1ケタ目（白地に黒文字）が100m単位で、
2ケタ目がkm単位です。

オイル交換や定期点検整備の目安にもなります。

JAU01928

トリップメーター

メーターをリセット（数字が“0”）した
時点からの走行距離を示します。

リセットするときはノブ（つまみ）を回します。

JAU02013

メインスイッチ

JAU01941

ニュートラルランプ (N)

メインスイッチがONで、ギヤチェンジがニュートラルのときに点灯します。

JAU01944

方向指示器表示灯 (◁▷)

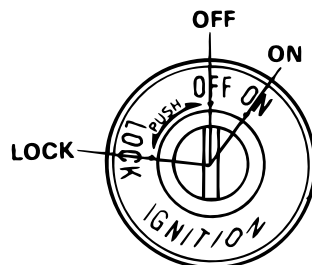
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU01945

ヘッドライト上向き表示灯 (≡▷)

ヘッドライトを上向き点灯すると、表示灯も点灯します。

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。



JAU02022

ON

- エンジンの始動ができます。
- テールランプ、メーター灯が点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。
- キーは抜けません。

要 点

- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。
- エンストしてもヘッドライトは点灯しています。

JAU02036

OFF

- エンジンを止めます。
エンジンは始動できません。
- キーの抜き差しができます。

ハンドルロック

JAU02038

LOCK (ハンドルロック)

- ハンドルをロックします。
- キーの抜き差しができます。

JAU02042

警告

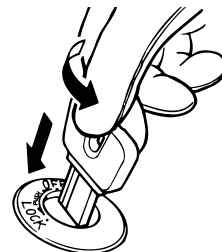
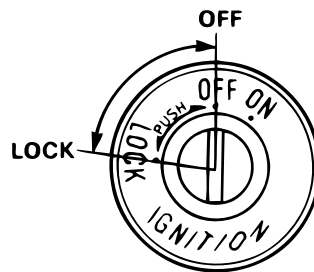
走行中にメインスイッチのキーをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチキーは必ず停車中に操作してください。

JAU02045

注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーをお持ちください。
- メインスイッチをONのままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

ハンドルロックは駐車時などの盗難予防用です。



ロックのしかた

1. ハンドルを左右どちらかへいっぱいに切ります。
2. OFFの位置でキーを押し込み、そのままLOCKまで回します。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

▲警告

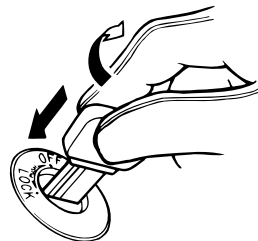
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。
また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

▲注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

ロックの外しかた

キーをLOCKの位置で押し込み、そのままOFFまで回します。



▲警告

走行前にハンドルを左右に切り、切れ角が左右均等であるかを確認します。

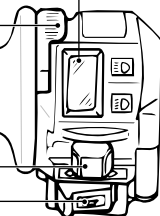
ハンドルスイッチの使いかた

ヘッドライト上下
切り替えスイッチ

ハザードスイッチ

方向指示器スイッチ

ホーンスイッチ



JAU02072

ヘッドライト上下切り替え スイッチ

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

☺ (上向き) : 遠くを照らします。

☹ (下向き) : 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き ☹ にしてください。

JAU02073

ハザードスイッチ (△)

故障などの非常時に、他車に知らせるために使用します。

メインスイッチをONにして、ハザードスイッチを△にすると、すべての方向指示灯が点滅します。

▲注 意

長時間ハザードスイッチを△のままにすると、バッテリーあがりの原因になります。

JAU02080

方向指示器スイッチ (⇐⇒)

進路変更の合図に使用します。

メインスイッチONのときに使用できます。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇐⇒ : 右側の方向指示灯が点滅します。

⇐⇐ : 左側の方向指示灯が点滅します。

▲警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他の方の迷惑になります。

▲注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

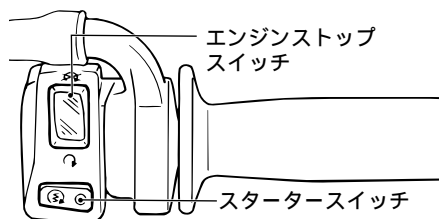
JAU02083

ホーンスイッチ (📢)

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。



JAU02092

スタータースイッチ (㊤)

スターターモーターを回転させ、エンジンを始動させるスイッチです。

▲注意

スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

JAU03217

エンジンストップスイッチ (㊤)

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は○にしておきます。

▲警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

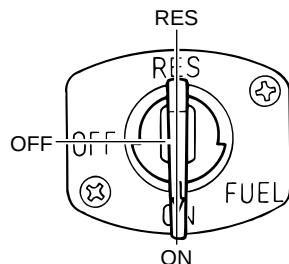
▲注意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを○→㊤→○にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要 点

㊤にすると、エンジンは始動できません。

フューエルコック



ON

始動および走行時のレバー位置です。

RES

予備燃料（予備容量約2L）のレバー位置です。

ONで走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーをONに戻してください。

OFF

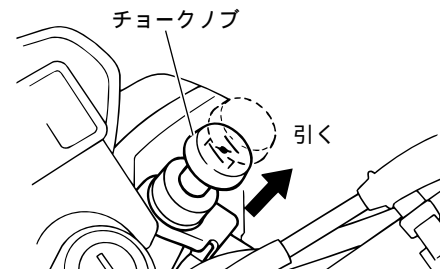
駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ずOFFの位置にしてください。

チョークノブ

エンジンが冷えているときは、チョークノブを引くと始動が容易になります。エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークノブを半分ぐらい戻します。エンジンが充分暖まったら、チョークノブをいっぱいまで戻します。

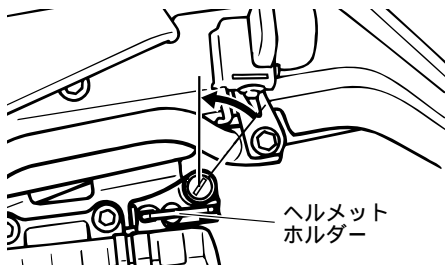


▲注 意

走行するときは、必ずチョークノブを戻してください。

ヘルメットホルダー

メインスイッチキーでロックを外し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。



⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

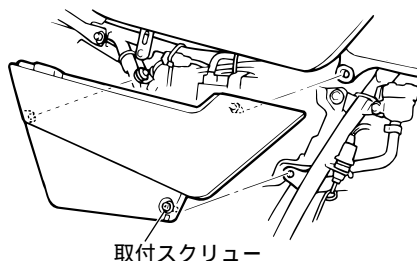
要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

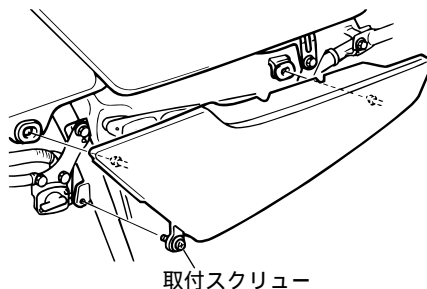
サイドカバーの取り外しかた

取付スクリューを外してサイドカバーを外します。

< 右側 >



< 左側 >



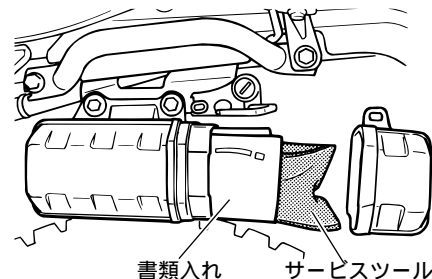
サービスツール / 書類入れ

左のサイドカバー後方にツールボックスがあります。

ヘルメットホルダーのロックを外し、カバーを開けると書類入れ（収納用ポーチ）とサービスツールが収納してあります。

保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。

書類入れはサービスツールの外側に巻き、ツールボックスに収納してください。



⚠ 注 意

ツールボックスはヘルメットホルダーを使用して、必ずロックしてください。

サスペンションセッティング

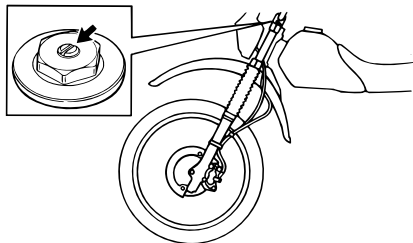
各自の好みや路面、走行状況に応じて調整ができます。

JAU03477

エアブリードスクリュー

走行によりフロントフォークの温度が上がると、フォーク内のエア圧が上昇し、作動が固くなることがあります。

上昇したエア圧を走行状況に応じて 0 kg/cm^2 に戻すために、エアブリードスクリューを装備しています。フロントフォークをいっぱいに伸ばした状態で、スクリューを外してフォーク内のエアを抜きます。



JAU02308

リヤクッション

リヤクッションのセッティングには

1. スプリングの取付荷重の調整
 2. 伸側減衰力の調整
- があります。

JAU02311

警告

クッションユニットには高圧チツ素ガスを封入してありますので、下記のことを厳守してください。

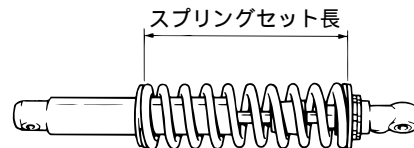
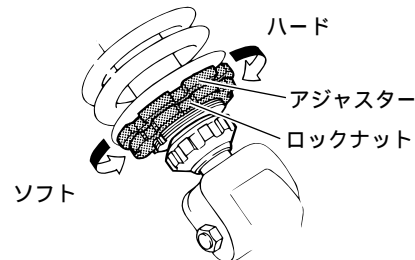
- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。
- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU02314

1. スプリングの取付荷重の調整

ロックナットをゆるめ、アジャスターを回すと、スプリングの取付荷重を調整することができます。

ご自身でできないときは、ヤマハ販売店にご相談ください。



1名標準値	174mm
調整範囲	181mm (ソフト) ~ 169.5mm (ハード)

▲ 注 意

- 調整後、ロックナットを確実に締め付けます。
- アジャスターの調整範囲を超えて回さないでください。

▲ 警 告

調整するときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02317

2. 伸側減衰力の調整

伸側減衰力アジャスターを回すと、クッションが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）を切り替えることができます。



▲ 警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

< 硬くするとき >

アジャスターをハード方向に回します。

< 柔らかくするとき >

アジャスターをソフト方向に回します。

アジャスターをハード方向に軽く締め込み、止まった位置からソフト方向に回して初めに“カチッ”というところが1段目です。回し続けると順次2段、3段となります。

1名標準値	14段
調整範囲	1段 (ハード) ~ 20段 (ソフト)

要 点

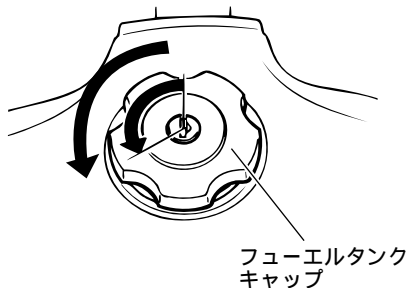
アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

▲ 警 告

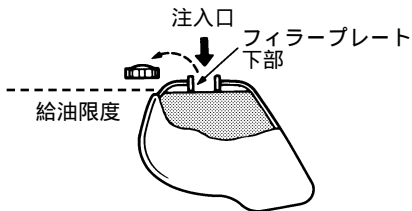
切り替えるときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ガソリンの給油

1. メインスイッチキーを差し込み、反時計方向に回してフューエルタンクキャップのロックを外します。
2. フューエルタンクキャップを反時計方向に回して開けます。



3. ガソリンを給油します。
ガソリンは、注入口にあるフィラープレート下部より上に入れないでください。



4. 給油後は、フューエルタンクキャップを時計方向に止まるまで確実に回します。
5. メインスイッチキーを時計方向に回し、フューエルタンクキャップをロックします。
6. メインスイッチキーを抜きます。

要 点

メインスイッチキーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。

また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

タンク容量：約10L（予備容量含）
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

⚠ 警 告

- ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。
- ガソリンをフィラープレート下部より上に入れないでください。
走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
給油限度を守って給油してください。
- フューエルタンクキャップは確実に閉めてください。

⚠ 注 意

- こぼれたガソリンは、布きれなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

エンジンのかけかた

エンジンをかける前に

1. フューエルコックをON（あるいはRES）にします。
2. メインスイッチをONにします。
3. エンジンストップスイッチが○か確認します。
4. ギヤチェンジをニュートラルにします。（ニュートラルランプが点灯します。）

警告

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

要 点

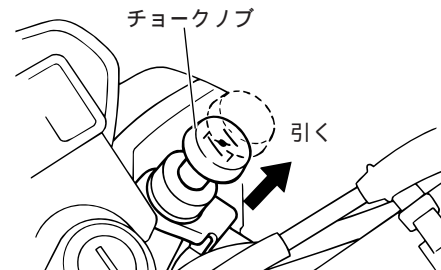
この車には、エンジン始動時の飛び出しを防止するクラッチスイッチと、発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。

- サイドスタンド格納時は、ギヤチェンジがニュートラルを除き、クラッチレバーを握らなければエンジンは始動できません。
- サイドスタンド使用時は、ギヤチェンジをニュートラルにしないとエンジンは始動できません。

JAU02400

エンジンが冷えているとき

1. チョークノブをいっぱいに引きます。



2. スロットルグリップを戻します。
3. スタータースイッチを押します。
4. エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークノブを半分ぐらい戻して暖機運転を行います。
5. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したらチョークノブを元に戻します。

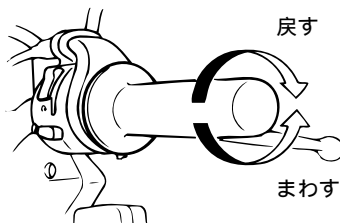
要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてから押し直してください。

JAU02414

エンジンが暖まっているとき

1. スロットルグリップを手前に少し回し、スタータースイッチを押します。
2. エンジンが始動したらスロットルグリップを戻します。



JAU02430

4～5回スタータースイッチを押しても始動しないとき

チョークノブを元に戻し、スロットルグリップをいっぱいに開けると始動しやすくなります。

▲注 意

エンジンが始動したら、スロットルグリップをすばやく戻してください。

走りかた

JAU02432

エンジンの止めかた

メインスイッチキーをOFFにするとエンジンが止まります。

1. サイドスタンドを確実に格納します。

警 告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

注 意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

2. クラッチレバーを握り、シフトペダルでギヤチェンジを1速に入れ、静かに発進します。

要 点

サイドスタンドが確実に戻っていないときギヤチェンジをすると、サイドスタンドスイッチによりエンジンが停止します。

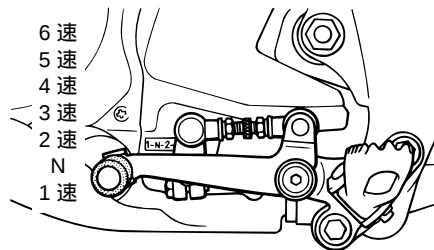
3. 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。

警 告

走行中に異常を感じたときは、すぐにヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

ギヤチェンジのしかた

この車はリターン式の6段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

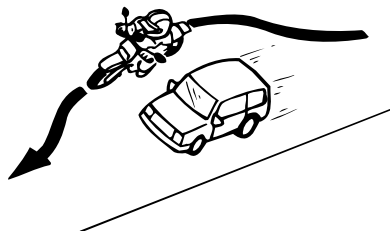


▲注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

シフトダウンのしかた

追い越しや登坂時などにシフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると、強力な加速力および登坂力が得られます。なお、高速で急激なシフトダウンを行うと、エンジンの回転が上がりすぎてエンジンやミッションに悪影響を与えます。



▲警告

急激なシフトダウンは走行安定性をそこない、転倒などの原因となりますのでしないでください。

▲注意

ギヤチェンジは必ずクラッチレバーをいっばいに握って行ってください。
クラッチレバーをいっばいに握らずに強引なギヤチェンジを行うと、エンジントラブルの原因となります。

ならし運転のしかた

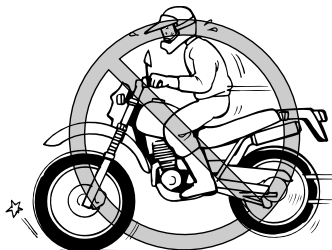
初回 1 か月目（または1,000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

ブレーキの使いかた

- ブレーキは前後輪同時にかけてください。
- 不要な急ブレーキはかけないでください。

急ブレーキをかけると、横すべりや転倒の原因となるときがあります。



警告

雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなることがあります。

ききが悪いときは、安全な場所で前後の車に充分注意し、低速で走行しながらききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りをかわかしてください。

要点

- 前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となるときがあります。必ず前後のブレーキを同時にかけてください。
- 雨の日や路面がぬれているところ、雪道や凍った道路では、滑りやすく制動距離も長くなります。速度を落として、余裕をもった運転をしてください。
- 長い下り坂などで連続してブレーキを使用すると、フェード現象の原因となります。このようなときは、エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作で走行してください。

要 点

フェード現象

- ブレーキ部の温度が上昇すると、ブレーキのききが悪くなるか、まったくきかなくなる現象。

エンジンブレーキ

- 走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力で、低速ギヤほどエンジンブレーキがききます。

エンジンの非常停止

何らかの原因でエンジンのコントロールができなくなると、きわめて危険な状態になります。

このような非常時にメインスイッチでエンジンを停止できないときは、エンジンストップスイッチを~~ON~~にしてください。ハンドルから手をはなすことなく、直ちにエンジンを停止することができます。

日常点検

JAU03277

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）

JAU02486

日常点検箇所 / 点検内容

詳しい点検の方法は、次頁以降の日常点検の方法および別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降を参照してください。

点 検 箇 所	点 検 内 容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。
エンジン	エンジンオイルの量が適当であること。 かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。 低速、加速の状態が適当であること。
灯火装置 および方向 指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常 が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。

（注）

印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

警告

点検するときは下記の内容に注意してください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。
ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。

日常点検の方法

ブレーキレバーの握りしろ /
ブレーキペダルの踏みしろ、
およびブレーキのきき具合の点検

JAU02496

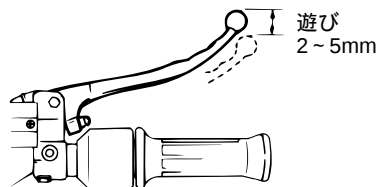
ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは2～5mm

(ブレーキレバーの遊びの調整は40ページ参照)



<後輪ブレーキ>

ブレーキペダルは無調整式です。ブレーキペダルを手で押し、手ごたえがあるかどうかを確認します。



ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02502

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



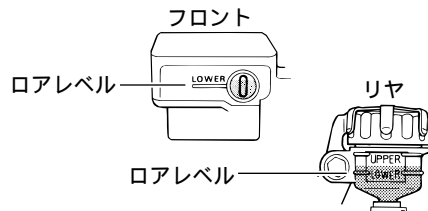
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU02504

ブレーキ液量の点検

マスターシリンダーキャップ上面を地面と平行にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

(ブレーキ液の補給は、40ページ参照)



警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02506

タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が適正かを点検します。

たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

(タイヤ空気圧は46ページ参照)



JAU03387

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はフロントにチューブタイヤ、リアにチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02509

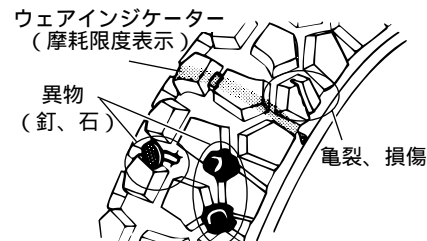
タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU03273

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。タイヤに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



⚠ 警 告

タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- より安全な走行のため、溝の深さが 4.0 mm 以下になりましたらタイヤの交換をおすすめします。

JAU02535

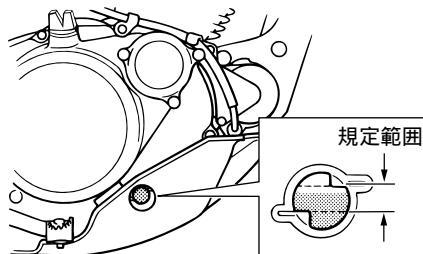
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを始動し、2～3 分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止め、車を垂直にします。
3. 2～3分後、エンジンオイルが点検窓の規定範囲内にあるかを点検します。



オイルが不足しているときは、43ページを参照して補給してください。

⚠ 警 告

エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。

ヤケドに注意してください。

JAU02540

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
アイドル時に異音がないかを点検します。

JAU02541

低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドルがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02544

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチをONにします。
 2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
 3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
 4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。
- 点灯しないときはヒューズを点検（48ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（53ページを参照）してください。

注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU02552

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

定期点検整備

JAU03279

定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6 か月点検と1 2 か月点検の2 種類があります。

▲ 警 告

- 定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02555

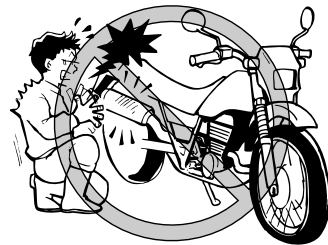
定期点検整備の方法

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。

実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

要 点

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。



▲ 警 告

点検するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

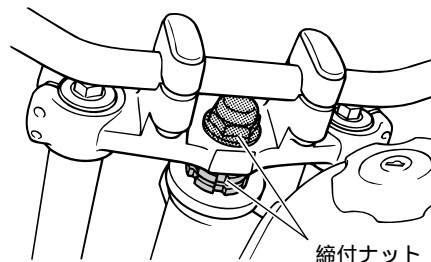
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU02557

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

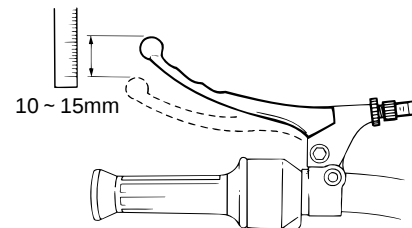
JAU02559

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

遊びは10～15mm

（クラッチレバーの遊びの調整は42ページ参照）

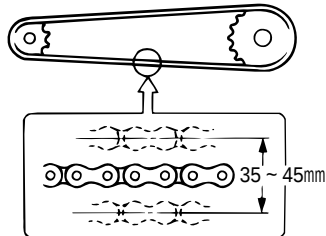


ドライブチェーンの点検

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たるみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

(ドライブチェーンの調整は、45ページ参照)



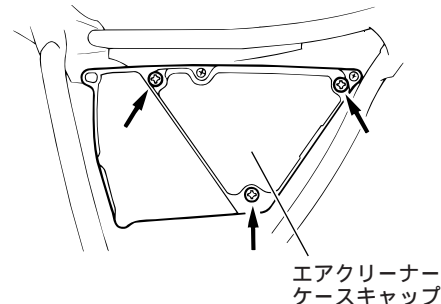
エアクリーナーエレメントの点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりなどを点検します。

ほこりなどが著しく多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検・清掃を行ってください。

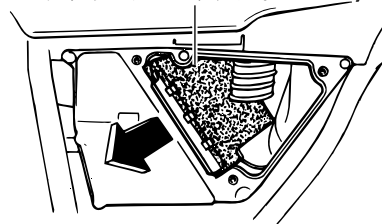
エアクリーナーエレメントの取り外し

1. 左のサイドカバーを取り外します。
2. エアクリーナーケースキャップを外します。

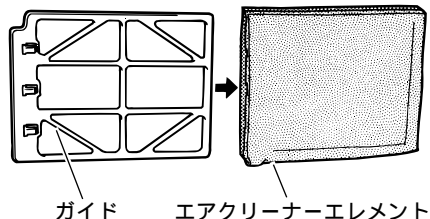


3. エアクリーナーエレメントをガイドごと取り外します。

エアクリーナーエレメント



4. エアクリーナーエレメントを取り外します。



JAU02633

エアクリーナーエレメントの 取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

(エレメントの清掃方法は、44ページ参照)

要 点

グレーのエレメントを前側にして取り付けます。

JAU02635

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02643

バッテリーの点検

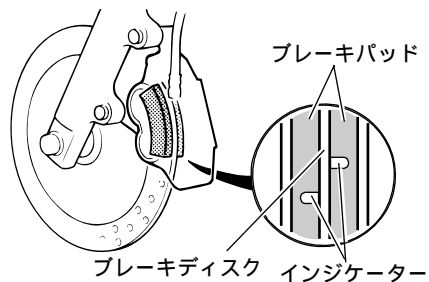
この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキパッドの点検

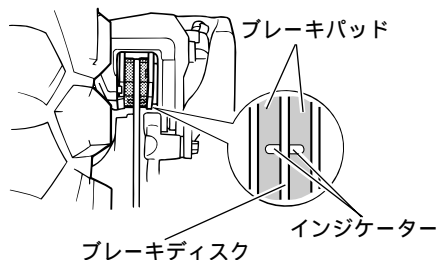
ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。

インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

< 前輪ブレーキ >



< 後輪ブレーキ >



やさしい整備

点検をして車に異常が認められたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要です。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

⚠ 警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

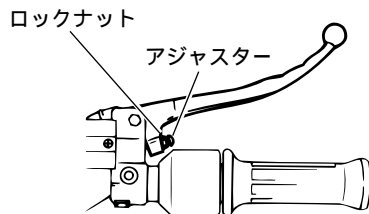
要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）

ブレーキの遊びの調整

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバー先端部の遊びが2～5mmになるように、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。



▲ 注 意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

▲ 警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯と、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

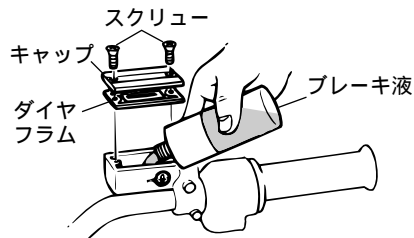
<後輪ブレーキ>

後輪ブレーキは無調整式です。

ブレーキ液の補給

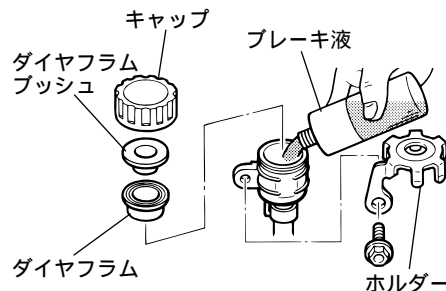
<前輪ブレーキ>

1. リザーバートankまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。



<後輪ブレーキ>

1. リザーバートankまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. ホルダーを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、ホルダーで固定します。



指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルードDOT4

ブレーキランプスイッチ

警告

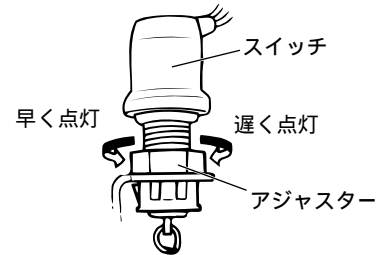
- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。
銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。
液が早く減少するようでしたら、お買い上げのヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために 1 年毎の交換をおすすめします。

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。

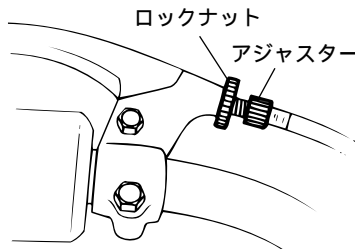
**注意**

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

クラッチレバーの調整

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

レバー先端部の遊びが10～15mmになるように、カバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。



警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。

なお、車の飛び出しに注意してください。

注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

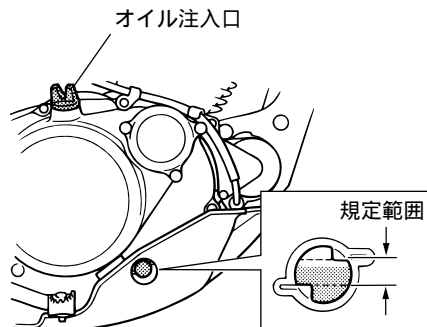
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

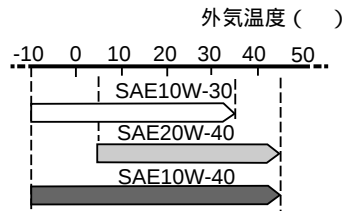
- エンジンを止めて2～3分後、車を垂直にしてオイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。
- オイル点検窓でオイル量を確認し、規定量以下のときはオイル注入口から補給します。



<推奨エンジンオイル>

	SAE規格	API 分類
ヤマハ純正オイル エフェロSJ	10W-40	SJ
ヤマハ純正オイル エフェロSG	10W-40	SG
ヤマハ純正オイル エフェロSF	20W-40または 10W-30	SF

エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



JAU03088

エンジンオイルの交換時期

	エンジンオイル	オイルフィルター
初回	1 か月点検時 または1,000km時	1 か月点検時 または1,000km時
以降	3,000km走行毎	9,000km走行毎

警告

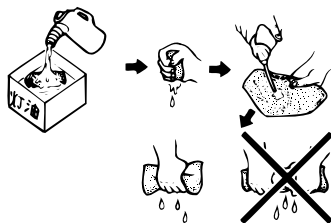
- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

エアクリーナーエレメントの清掃

▲注 意

- 化学添加剤は一切加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

1. エアクリーナーエレメントを取り外します。(36ページ参照)
2. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄し、ME-Rフィルターオイルに浸してから布きれなどで包み、しぼります。



3. エレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

▲注 意

- ガソリンや、有機性の揮発油（酸性、アルカリ性共に）で洗浄しないでください。
- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやホコリがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

ドライブチェーン

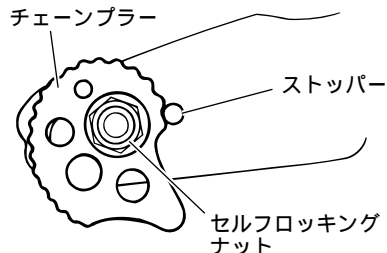
給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマハME-2チェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-1シールチェーンオイルを給油します。

JAU02747

チェーンの張り調整

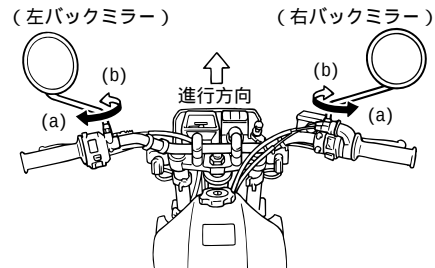
1. セルフロックングナットをゆるめます。
2. チェンブラーを左右均等に回転させ、同じ位置でストッパーに合わせます。(目盛りを左右同位置にします。)
3. 張り具合が規定値になるように調整します。(36ページ参照)
4. 調整後、セルフロックングナットを確実に締め付けます。



JAU02753

バックミラー

バックミラーの取り付け および取り外しかた



- 右バックミラーは左ネジです。
左：反時計回り (a) に回すと締まります。
右：時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。
右：時計回り (a) に回すと締まります。
左：反時計回り (b) に回すとゆるみます。

タイヤ

空気圧

空気圧はタイヤの冷えているときに測定してください。

この車は後輪にチューブレスタイヤを装着してあります。

		前 輪	後 輪
タイヤ 空気 圧	1 名乗車	125kPa (1.25kg / cm ²)	150kPa (1.50kg / cm ²)
	2 名乗車	150kPa (1.50kg / cm ²)	175kPa (1.75kg / cm ²)
	高速走行	150kPa (1.50kg / cm ²)	175kPa (1.75kg / cm ²)
タイヤサイズ		2.75-21 45P	120/80-18 62P
指定 タイ ヤ	ブリヂストン	TW301	TW302
	ダンロップ	D605F	D605

溝の深さ

安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的にトレールタイプのタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが4mm以下になりましたら交換をおすすめします。

警 告

異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。

バッテリー

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

⚠ 注 意

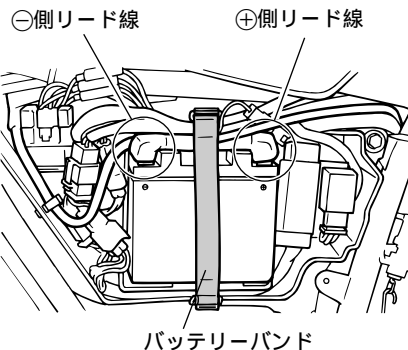
このバッテリーは密閉式の12Vです。

- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、6か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU02792

バッテリーの取り外し

1. 右のサイドカバーを取り外します。
2. バッテリーバンドを外します。
3. ⊖（マイナス）側リード線を外し、次に⊕（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

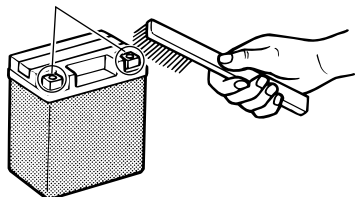
ヒューズ

JAU02809

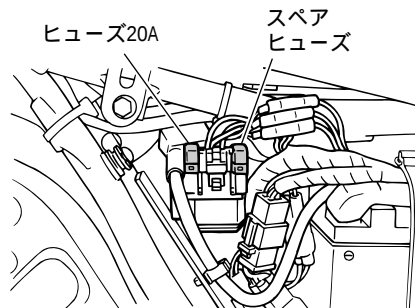
ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

ターミナル



バッテリー横のスターターリレー上のヒューズホルダーにセットされています。

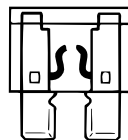
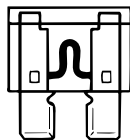


規定ヒューズ：20A

ヒューズが切れたときは、原因を調べてからスペアと交換してください。

▲注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。



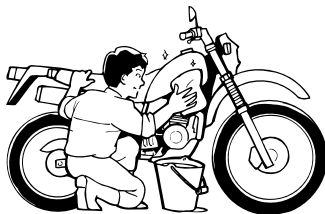
お車の手入れ

JAU02850

洗 車

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。



雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。

⚠ 警 告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドに、ワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

保管のしかた

▲注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

要 点

ツールボックス付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

▲注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

1. 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
2. 6 か月ごとにバッテリーの補充電をしてください。
3. 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

A) 4サイクルオイルエフェロSJ

高速走行から高負荷のスポーツ走行まで安心して使える、スポーツタイプのオイルです。

B) 4サイクルオイルエフェロSG

走行を選ばず、あらゆる走行条件に対応するマルチタイプのオイルです。

C) 4サイクルオイルエフェロSF

一般走行、業務用に最適なベーシックタイプのオイルです。

D) ブレーキフルード

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。

E) ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

F) ME-1（防錆潤滑剤）

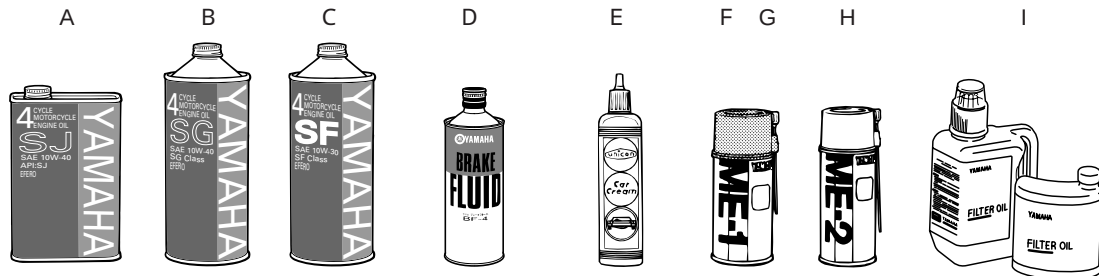
防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。

G) ME-1シールチェーンオイル

ゴム質の乾燥やヒビ割れを防止し、当初の湿性と柔軟性を保ちますので、“O”リングチェーン本来の機能を引き出せるオイルです。

H) ME-2チェーンクリーナー

チェーンに付着したグリスやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。





1) ME-Rフィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MXラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。

サービスデータ

製品仕様

通 称 名		セローXT225W		原	内 径 × 行 程		70.0 × 58.0mm		減	第1次減速歯数・比		73/22		3.318	
車 名 ・ 型 式		ヤマハ・BA-DG08J			動	圧 縮 比		9.5 : 1		速	1速		34/11		3.090
寸 法	全	全 長	2070mm	機		エアクリーナー形式		湿式ウレタンフォーム			比	2速		30/15	
		全 幅	805mm		ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板		3速			30/21		1.428	
		全 高	1140mm		ミッション・チェンジ方式		常時噛合式前進6段		4速			27/24		1.125	
		軸 間 距 離	1350mm		始 動 方 式		セルスターター		5速			25/27		0.925	
		最 低 地 上 高	285mm		点 火 方 式		C.D.I.		6速			23/29		0.793	
重 量	車 両 重 量	車 両 重 量	122kg	車	フ レ ー ム 形 式		ダイヤモンド		灯 火 ・ 計 器	第2次減速歯数・比		45/15		3.000	
		前輪分布	56kg		キ ャ ス タ ー		26° 30'			ヘ ッ ド ラ イ ト		12V 60/55W (ハ口ゲン)			
		後輪分布	66kg		ト レ ー ル		102mm			ブレーキ/テールランプ		12V 21/5W			
		車 両 総 重 量	232kg		ハ ン ド ル 切 れ 角		左右各51°			方 向 指 示 灯		12V 10W×4			
		前輪分布	79kg		フューエルタンク容量		10L / 予備容量約2L			メ ー タ ー 灯		12V 3.4W			
性 能	乗 車 定 員	後輪分布	153kg	体	ブレーキ形式 (前)		油圧式ディスクブレーキ		パイロット ラ ン プ	ニュートラル		12V 3.4W			
		定地燃費 (運輸省届出値)	46km/L (60km/h)		↑ (後)		油圧式ディスクブレーキ			ヘッドライト上向き表示		12V 1.7W			
		最 小 回 転 半 径	1900mm		懸 架 方 式 (前)		テレスコピック式			方向指示器表示		12V 3.4W			
		最 高 出 力	15kW(20PS)/8000 r/min		↑ (後)		スイングアーム式								
		最 大 ト ル ク	19Nm(1.9kg・m) / 7000 r/min		緩 衝 方 式 (前)		オイルダンパー / コイルスプリング								
原 動 機	原 動 機 種 類	原 動 機 種 類	4サイクル、空冷、SOHC	機	↑ (後)		ガス、オイルダンパー / コイルスプリング								
		タイヤサイズ (前)	2.75-21 45P (チューブ)												
		↑ (後)	120/80-18 62P (チューブレス)												
気 筒 数 ・ 配 列		単気筒・横置													
総 排 気 量		223cm ³ (cc)													

定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

サービスデータ

エンジン オイル	交 換 時	1000 cm^3 (cc)	ホイールトラベル		前	225 mm	スパーク ブ ラ グ	型 式	DR8EA
	エレメント交換時	1100 cm^3 (cc)			後	190 mm			X24ESR-U
	オーバーホール時	1300 cm^3 (cc)	タイヤ 空 気 圧		前	125 kPa (1.25 kg/ cm^2)		ギ ャ ッ プ	0.6 ~ 0.7 mm
ドライブチェーンの張り具合		35 ~ 45 mm			後	150 kPa (1.50 kg/ cm^2)			
クラッチレバーの遊び		10 ~ 15 mm			前	150 kPa (1.50 kg/ cm^2)			
ブレーキの遊び	前	2 ~ 5 mm			後	175 kPa (1.75 kg/ cm^2)			
	後	無調整式			前	150 kPa (1.50 kg/ cm^2)			
	後	無調整式			後	175 kPa (1.75 kg/ cm^2)			
フロント ブレーキ	パッドの厚さ	5.3 mm	バッテリー	型 式	GT6B-3				
リヤ ブレーキ	パッドの厚さ	4.7 mm		容 量	12V 6Ah				
	パッドの摩耗限度	1.0 mm (インジケーター付)							

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XT225W サービスマニュアル

部品番号

基本版：4JG-28197-00

追補版：4JG-28197-05

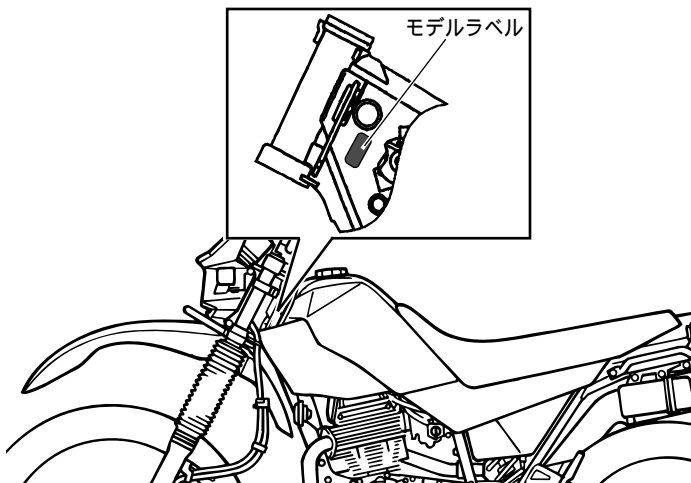
：4JG-28197-06

：5MP-28197-05

追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

モデルラベル

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化して記載しています。パーツオーダー、アフターサービスなどのご相談に対して的確な判断・処理をするために、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。モデルラベルはフューエルタンク前方のフレーム左側に貼り付けてあります。



あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車 名 は	XT225W
モデルラベル	製品仕様を示しています。 ○ カラーリングを示しています。 ●

JAU03382

こんなときは、このページをご覧ください。

- エンジンが始動しないときはP23
- 走行中にガソリンがなくなったときはP22
- ランプ類が点灯しないときは（ヒューズ切れ）P48
- ランプ類が点灯しないときは（電球切れ）P53
- ブレーキのきき具合に異常があるときはP38

●こまったときの連絡先

お問い合わせ、ご相談は下記お客様相談室にお願いします。

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室

フリーダイヤル ☎ 0120-090819

所在地 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

・受付時間 9:00～17:00

・土曜、日曜、祝日を除く

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

5MP-28199-J0



ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

XT225W 取扱説明書

000400

再生紙を使用しています